

然し斯る變體性に傾き易き友愛が法則によつて律せられず道德化してゐないアゼンスにては稍墮落の傾向をとつた。ソクラテスは墮落せる青年の純情を救はんと欲してこれを利用して青年の精神を救ふ道を開き以てプラトンの神聖なる理想愛の哲學的觀念を創めしめるに至つた。

新著紹介

○國民世界地理 下卷

藤田元春著 四六版五七三頁

十二頁 圖版二七葉 富山房發行 九月

定價二圓二〇錢

期待されてゐた國民世界地理下卷が新裝をこらして出た。この卷にはヨーロッパと南北アメリカとが記述されてゐる。上巻と同じく主としてブルツクスの「世界」に依り、日本人の立場として或る細かい部分は省き、政治的又は國家的の記事の不足を補つてある。圖版の多いと共に挿圖の数が二一九の多きに達してゐるのは賑はしきことである。記事は國民の讀むに適する様にやさしく書いてある。初版である爲め誤植、殊に地名等の固有名詞の横文字の間違ひが少くない。再版の時の改訂を希望する意味で注文を擧げて見ると地質の記事の譯語や理解が不充分であること、地名の讀み方にいかゞはし

新著紹介

いものがあること、飛んだ思違ひが稀にあることなどである。二五頁のアイランドの馬鈴薯の記事や一四三頁の偽造バタをマーガレットと書いてあることなどは後者の例で御愛嬌ではあるものゝ直して欲しいことである。とは云ふものゝ地誌を一般の讀物とする隨分厄介な仕事をされた著者の精力は敬服に値する。江湖は讀み易い地誌を獲たことを有難がらねばならぬと思ふ。(S)

○日本・風土と生活形態

(航空寫眞による人文地理學的研究)

小田内通敏著 二四冊×二九冊寫眞版三五葉圖版說明一二頁 東京鐵塔書院發行

八月 定價二圓五〇錢 特製五圓。

風土と生活狀態の認識は航空寫眞の考察によつて實現されるといふ見地から陸軍航空本部並に下志津陸軍飛行學校の撮影にかゝる航空寫眞二萬餘枚の中から選擇した五十三個の寫眞を三十五圖版に複製し之に略解を附したものが此の空前の出版物である。從來新聞社から出版された航空寫眞帖の幾つかはあつたが、地理學的見地に立つて編纂されたものはなく、學問上甚だ遺憾だとしたものであつた。然るに本書は寫眞銅版なるにも拘らず印刷鮮明にして學的嗜好を滿喫するに足るの價額の低廉なものと相俟つて日本地理學の一慶事であることに先づ著者の序説の一部を摘記して本書の抱負を傳へるのは徒事でないかと考へる。日本の風土は島國で且つ山島であることゝ季節風帶に在るといふことによつて特徴付けられ

る。猶ほ且つ著しい火山現象の結果は地形を複雑にし、多湿なことは水蝕による彫塑を多様ならしめる。これ等の自然的特質は土地經濟の上に直に反映する。風土と生活形態との相依は山地に於て最もよく表現されるから、富士、阿蘇、丹那、箱根、伊豆中部等を本集の初めに表した。洪積臺地上の平野景觀は本邦風土中著しいもので其の耕作景、道路網、村落立地は特種の表現である。關東洪積臺地の地形と生活形態を表したものは姥山貝塚、八街及び川越附近の田園や、習志野の農耕地等を採つた。次に海岸平野及び沿河平野の農耕殊に米栽培の狀態を九十九里、利根川等の例を以て示し併せて川越、東金、土浦、大網、湊を擧げて村落都市發達の過程を示さうとした。海蝕による斷崖を有する海岸も亦一の特色を表はし漁業の基礎を作るので房總半島の一例を採つた。生活形態の基準としての瀬戸内の鹽田、中國の乾田などを採用することを忘れずに、之を通觀すれば村落から都市への遷移が中間型を経て發育してゆく有様を自らさとらせやうとした。それが爲めには佐倉の城下町や、岡山、熊本、城郭や、門前町としての琴平、保養市としての大磯を掲げて終に横濱、東京の大都市に及ぼした。附するに旭川の殖民型、朝鮮の乾いた農村、樺太の原始景を以てした。著者は之を以て日本の風土と生活形態の縮圖だと自負してゐる。寫眞は關東のものが大多數を占めてゐるから完全に日本の生活狀態は示してゐない、例へば鑛山がない、水力電氣がない。何れ次集としてかゝるものが著者によつて公にされることを期待する。次で公にさ

れるものゝ爲めに紹介者の注文を列擧すると、寫眞の位置が解説でわからぬものが少くない。場所がどこか全然記されてないものもある。少くとも五萬分一地形圖で所在が判るまでの説明が欲しい。之は地理の課業に用ふる場合に教師にとり極めて必要なことであるから。第二に直上から地上を撮影した寫眞ではかまわないが少しく斜に取つたものであると地物に遠近があり従つて寫眞に上下がある。寫眞の題名をつける場合に寫眞の上下左右を無視することは逆立ちの肖像畫と同一で寫眞の理解を妨げる。本集には上下又は右と下となどを無視したものが數葉ある。之は印刷の時に充分注意すべきである。之を清覽して地理を樂しむことを得ると同時に地理科の授業にはよき資料である點に於て紹介子は之を推奨するに吝らぬものである。(N)

○輓近自然地理學(上)

佐賀高校教授 青山信雄著

判本文五九五頁(但し上卷) 索引付 昭和六年

九月十五日發行 古今書院 定價五圓五拾錢

我友青山君は先に輓近礦物學を著し好評を得た。今また輓近自然地理學を著し其上巻が最近發賣されたが一部の寄贈を受け、急ぎ手に取り巻を開いて確實に我學界の名著たるを知つた。自然地理を學習するに實際我國文で統括された良書のない事を託つた人も少くないだらうと思ふが今や青山君の著述を得て充分に此缺陷が補はれた。本書は自然地理學全般に亘り輓近の研究を基として可なり詳しく記述され、輓近の學

説例へばウキリスの地溝成因に關するリフトとラングの考へ方デーリーの火山活動の本原に關する説及び造山作用の下滑説の如きを盡してゐる。多分下巻にてはウエゲナーの説等の簡にして要を盡した説明を得る事と思ふ。著述の標準は中等學校教授者、文檢受験者にありと著者は言明してゐるが大學の學生のみならず、専門學者にて地學一般新潮に後れがちの者にも全く良參考書である。

本書に於いて嬉しい事は常に讀者に親切である事で、説明の方法、文章に十分の注意が拂はれてある事である。特に嬉しいのは術語の定義が可なり詳しく説明されてあり、本文に於いて不足の分は脚註にて補はれてある事である。又同義語は一々詳述して缺くる所が少い。定義の學者により異なるものは一々説明してあるので讀者が迷はせられる様な事がない。更に進んで術語の語源を脚註に加へてゐるのは著者に親切がなければ出来ぬ相談で他書に類例が少い所である。挿畫は多い。之は多くは外國書より寫したものであるらしいが斷りがない。しかし我國の出版界に於いて通例しない事だから著者を難するに當らぬ。

第一篇天文地理學は蓋し本書中最も優れた部分であつて他の地理學者の企て及ぶべからざる所である。著者は天文學に少年時代より多大の愛好心を持ち大學も本人は星學科に入りたかつた位で學生時代卒業後も此方面の研究が唯一のホッピイであり、度々の著述の動機も決して小使取りではなくて此

清い道樂に奉仕せんが爲の資金、即ち私立天文臺の設立費の自力による調達にある。一二四頁までは天文學の要約を述べ次に二五四頁迄に所謂數理地理學の主部たる天體としての地球、季節、曆の事、地磁氣、地球の内部、アイソスタシー、放射能の諸問題等を詳述してゐる。第九章には地圖學を扱ひ種々なる投影法の要を得た説明をなしてゐる。第二篇は陸界地理學であるが良くも此だけ多くの事項を網羅したかと思へる程であり、懇切にて嚴格なる文章を以て記されてある。本書には決して押し付けがましいドグマ自説はない。公平に有力なる學說を集め其簡易なる解説を加へてあるので參考書としては最も穩健である。著者と雖、此様な概括的學問に於いては得意でない部分もあるだらうし、其場合には序文に擧げてある參考書から苦しんでデツチ上げたものであらうと想像せられるけれども、一寸の尻尾をも捕へ得なかつた。之は餘程の勉強で困難に打ち勝つたもので、著者の努力には全く感心させられた。(横山次郎)

雜 報

○北滿洲のバタ

北滿のバタを工業化したものはロシヤ人である、革命に際した後バイカルの白系ロシヤ人はアルゲン河をこえて北部ホロンバイルの吉拉林地方に移住して時をまつたが、ソヴィエツトの政府が強くなつてゆくので、歸國が